

2022年度 第2回 現代文化人類学会（旧早稲田文化人類学会）定例研究会  
『病いと薬のコスモロジー  
—ヒマーラヤ東部タワンにおけるチベット医学、憑依、妖術の民族誌』合評会

日時：5月23日（月）18時15分～

場所：Zoomによるオンライン開催

\*どなたでもご参加いただけます。ただし、オンライン開催のため、事前申込が必要です。

5月20日（金）までに下記のGoogleフォームを通じて申し込みください。5月21日以降、参加申込をされた方のみに、ZoomのURLをお送りします。

<https://forms.gle/6aLSngBLndrnJqYn9>

企画趣旨：

2022年度第2回の定例研究会では、昨年3月に刊行された『病いと薬のコスモロジー—ヒマーラヤ東部タワンにおけるチベット医学、憑依、妖術の民族誌』をめぐる合評会を開催することにしました。当日は著者による内容紹介や2名の評者による論評に加えて、参加者からのご意見をいただき、多様な議論を展開したいと考えています。

18時15分～18時40分 著者解題 長岡 慶（日本学術振興会特別研究員）

18時40分～19時00分 評者① 津村文彦（名城大学外国語学部教授）

19時00分～19時20分 評者② 岩谷彩子（京都大学人間・環境学研究科教授）

19時30分～19時40分 リプライ

19時40分～ 質疑応答

\*著作情報

長岡 慶『病いと薬のコスモロジー—ヒマーラヤ東部タワンにおけるチベット医学、憑依、妖術の民族誌』（春風社）

<http://www.shumpu.com/portfolio/816/>

お問い合わせ：

現代文化人類学会定例研究会ワーキンググループ

箕曲在弘

minoo [a] waseda.jp

\* [a]を@に変えて送信してください。